

校内研究だより 第1号

南関第三小学校
令和7年6月12日
研究主任：辻田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、
相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

6月6日（金）第5校時、福永先生が、6年理科の研究授業を行いました。

○単元名「動物のからだのはたらき 8／10」（東京書籍「新しい理科6」）

①前時のふりかえり・めあての設定をする。



②見通しをもつ。



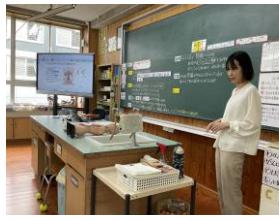
③尿がどこでどのようにして作られるのかを調べ発表する。



④尿検査は何のために行われるのかを話し合う。



⑤養護教諭の話を聞く。



⑥学習のまとめ・振り返りを行う。



まとめでも
キーワードを提示



めあて・言語活動・まとめにて、キーワードが大活躍。「黒板を旅するキーワード」
(校長先生より)

★共通実践事項

○キーワードの活用

○めあて・まとめ（書き出しの提示）の流れ

※R7年度、「学校化」を目指して取り組んでいきましょう。よろしくお願いします。

授業後の感想の紹介です。

授業に向けて福永先生が「楽しい授業にしたい。」と、言わされていました。導入や子供たちへの問い合わせなど興味関心が高まる工夫がされていて、最後まで子供たちが顔を上げて先生の話を聞いていたり、一生懸命に考えたりしていました。(鶴先生)

「理科スタンダード」や「キーワードの活用」「班での話し合い」など、授業の流れが、子供たちに浸透していて、子供主体の授業になっていました。めあての立て方、まとめ方など、時間を有効にかつ、子供たちが自身で決めていく形を考え、次からの授業に生かしていきます。(右田)

授業研究会では、ピンクの付箋紙（良かった点）が多く出されました。水色の付箋紙（課題となる点）は、導入とまとめ部分に見られました。キーワードの活用、学習リーダー、調べ学習など、これから的研究授業に向けてたくさんの学びをいただいた授業でした。

◎グループ協議で出た意見

良かつた点	<ul style="list-style-type: none">・めあてとまとめの整合性ができていた。・めあてを自分たちで考えていた。・学習リーダーをたてて授業を進める方法がよく分かった。・既習事項の児童による発表と全員で確認ができていた。・キーワードがしっかりと準備、活用されていた。・「尿検査は何のためにするのか」→「そもそも尿はどこで作られるのか」→めあてに立ち返るという流れが見られた。・授業中、「豆のような形」「玉ねぎのような形」など、臓器の形を例えた児童のつぶやきを紹介されていた。・「もし、必要なものが尿に流れたら？」という切り返し発問が、児童の思考を促すきっかけとなっていた。・福永先生の机間指導が効果的だった。・G T（鶴先生）の話を通して考えを深めた児童が、振り返りに書き出していた。・まとめにて、キーワードを提示したことで焦点化がなされた。
課題→改善策	<ul style="list-style-type: none">・導入の時間をもう少し短くすれば振り返りまでできたかもしれない。・より多くの児童の発表を聞きたかった。（→お散歩タイムの設定）・まとめの文を書くのが難しかった様子。（→国語ではないので、グループでまとめてよかつたかもしれない。） （→「腎臓が正しく働いているかを調べるために尿検査がある」B評価レベルでもよかつたかもしれない。）（→リード文を後から提示し、（　　）の穴埋めを促す形でもよかつたかもしれない。）・自分の考えを書いているのに、消してから黒板を写す児童がいた。（→理科以外でも、「考えのあしあと」を残すように伝えていく。）

授業者の福永先生より

今日の授業では、理科が苦手な児童も楽しんでいた。これからも参加してよかつたと思ってもらえる授業を目指していきたい。子供たちにおいては、尿検査の目的、腎臓の働きについてしっかりと頭に残っているだろう。

最後に、村岡校長先生よりまとめていただきました。

校内研は、学校教育目標や、「資質・能力」を伸ばすためにはどうすればいいかを共通理解を図り、共通実践や取組の検証を考える場である。今日の福永先生の授業は、研究テーマに沿ってよく考えられていた。

今年度も、全職員が同じ方向を向いて、学校全体で共通実践事項に取り組んでいきたい。